

1 PLAN(目的・概要)

建設整備事業

政策名	物流・産業		27年度事業・施策評価結果			責任者	建設部 事業推進課長
施策名	国際・国内海上輸送機能の強化		成果	コスト			
事務事業名	稲永ふ頭ふ頭用地整備事業		延伸	維持	維持	連絡先	052-654-7921
目的	対象(誰・何を)	稲永ふ頭用地				事業期間	平成4~32年度
	意図(どういう状態にしたいか)	陸上輸送と海上輸送の複合一貫輸送に対応した内貿ターミナルを整備します。					
概要	整備場所:名古屋市港区(稲永ふ頭) 内容・規模:陸上輸送と海上輸送の複合一貫輸送に対応した内貿ターミナルを整備し、モーダルシフト(トラックによる幹線貨物輸送を、地球に優しく、大量輸送が可能な海運または鉄道に転換すること)を推進します。ふ頭用地7.1ha(埋め立て、地盤改良、舗装工、排水工等)等の整備 総事業費:41億円					根拠法令等	公有水面埋立法 港湾整備促進法 名古屋港湾計画
事業着手時点の評価	ふ頭用地の整備を行うことにより、ふ頭機能の老朽化に対応するとともに、ヤード面積等(7.1ha)が確保され、在来貨物等取扱機能の向上を図ります。					実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
28年度の実施予定	複合一貫輸送に対応した内貿ターミナルへの需要動向を見極めながら事業の進捗を実施するため、現時点ではふ頭用地整備を行う予定はありません。					関連シート	

2 DO(実施)

28年度に実施した内容・結果	事業進捗はありませんでした。					
コスト	単位	26年度	27年度	28年度	合計(平成4年度~)	備考(費用の増減理由等)
工事費	千円	0	0	0	3,094,515	
人件費	千円	0	714	717	-	
合計	千円	0	714	717	3,094,515	

3 CHECK(検証)

指標名		26年度	27年度	28年度	中間目標	30	指標の説明・目標値の考え方	外部要因	
事業進捗率(%) (進行管理型)	目標	79.8	79.8	79.8	86.5(累計)		事業進捗率は、全体工事費を100とした工事費の割合です。		
	実績	79.8	79.8	79.8					
	事業進捗状況(28年度)			○順調・やや遅れ・遅れ					
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	これまでの工程は順調に進捗しております。事業費の2割程度を占める舗装工事等については、ふ頭用地需要の動向を見極めたのち、3ヶ年で整備を進めていく計画となっております。								
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明							
必要性	事業着手時に比べ必要性が低下していないか? 事業費規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○	稲永ふ頭における在来貨物取扱機能の向上について、利用者ニーズを見定めながら、事業を進めていく必要があると考えております。						
有効性	事務事業は、施策達成に貢献するか? 期待どおりの成果が得られているか?	○	ふ頭用地を整備し、在来貨物等の取扱機能を向上させることは、上位施策である「国際・国内海上輸送機能の強化」に貢献すると考えております。 ふ頭用地の需要動向を見極めているところであるため、成果の評価は対象としておりません。						
効率性	最小のコストとなっているか?	○	ふ頭用地の需要動向を見極めながら、事業を実施しております。						

4 ACTION(取組)

施策評価結果	29年度以降の方向性			判断理由
		成果	コスト	
	延伸	維持	維持	ふ頭用地需要の動向を見極めながら、必要な事業の推進を図る必要があるため。 * 今回の評価にて、事業完了年度を延伸(32→33年度)
	課題			
複合一貫輸送に対応した内貿ターミナルとしてのふ頭用地需要を見極めながら、事業進捗を図っていく必要があります。				引き続き、ふ頭用地需要を見極めながら、事業を進めていきます。